

氏名	赤澤 信幸
学位の種類	医学博士
学位授与番号	乙第 1609 号
学位授与の日付	昭和60年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）
学位論文題目	腎盂腎炎の生体防御機構に関する研究 — Proteus mirabilis による実験的腎盂腎炎における腹腔 Macrophage の機能亢進と感染防御効果の検討—
論文審査委員	教授 太田善介 教授 金政泰弘 教授 木村郁郎

学位論文内容の要旨

腎盂腎炎の生体防御機構における Macrophage (M ϕ) の役割を解明する目的で、ラットに *Proteus mirabilis* (*P. mirabilis*) 逆行性腎盂腎炎を作成し、腹腔 M ϕ の Superoxide (O₂⁻) 生成能をその機能の指標とし、感染腎の病理組織学的検索及び mortality rate を感染防御効果の指標として、薬剤による生体防御機構修飾状態で両指標の変動を比較検討した結果、M ϕ の感染防御的役割について、以下の知見を得た。1) 腎盂腎炎により腹腔 M ϕ は活性化された。2) 感染防御効果の検討では、免疫賦活剤 (OK432) を投与した場合にのみその効果が認められ、M ϕ の機能亢進剤 (Diethylstilbestrol), 機能抑制剤 (Carrageenan), 免疫抑制剤 (Cyclophosphamide) 投与下では、M ϕ の機能変化をきたすものの、有意差はなかった。

従って、本実験系において M ϕ は、感染防御効果としては従たる役割であると考えられた。

論文審査の結果の要旨

腎盂腎炎の生体防御機構におけるマクロファージの役割を解明する目的で、ラットに *Proteus mirabilis* 逆行性腎盂腎炎を作成し、腹腔マクロファージの superoxide 生成能などを指標として検討した結果、腎盂腎炎により腹腔マクロファージが活性化されること、感染防御効果の検討では免疫賦活剤を投与した場合に有効であることなど認めてマクロファージは感染防御効果の一部の役割をはたしていることを明らかにし、臨床的にも有

意義な研究であると考えられる。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。